

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

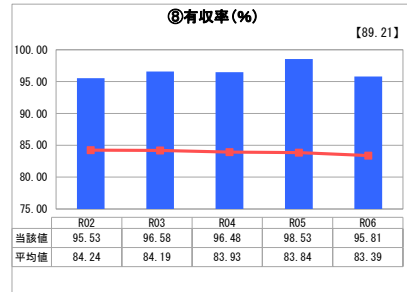
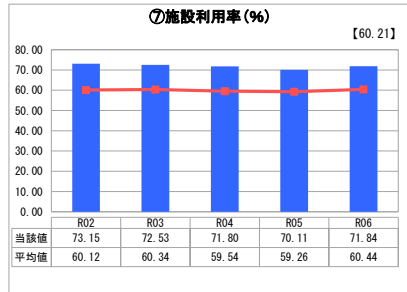
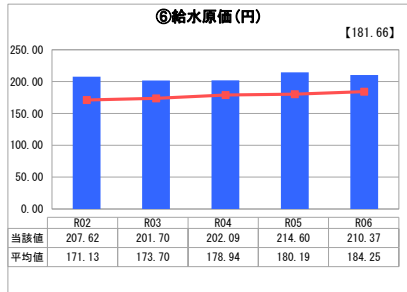
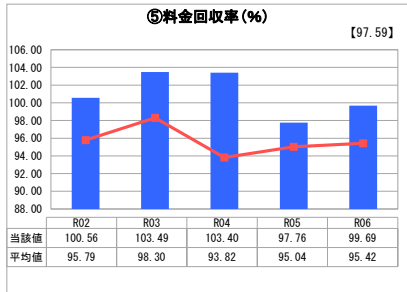
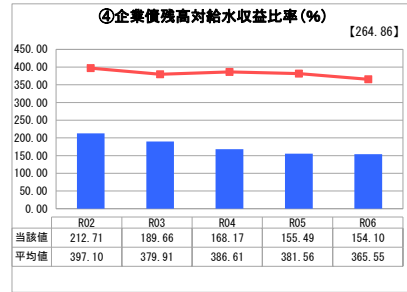
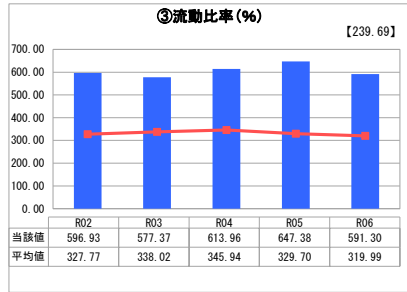
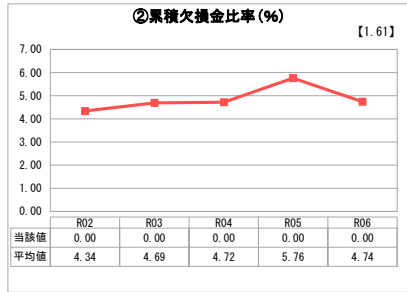
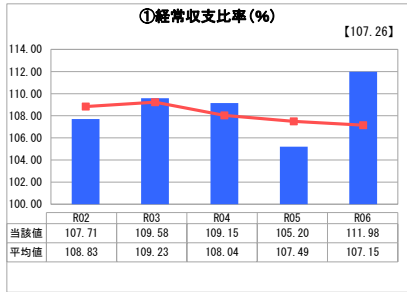
福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	81.94	97.37	3,980	

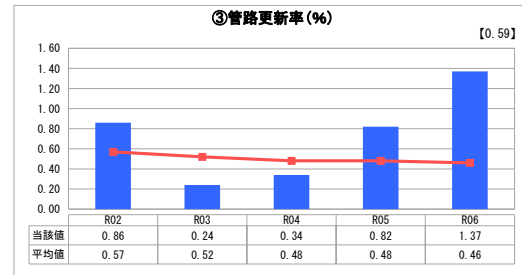
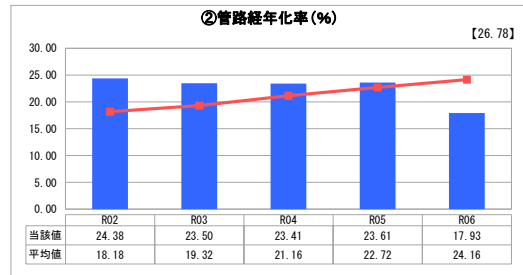
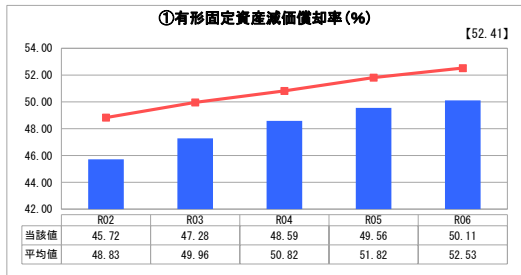
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,979	18.93	1,742.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,166	13.69	2,349.60

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

加入金等の収入により、末端給水事業の経常収支比率は前年度と比較して増加し100%を上回る状況です。また、現在土地区画整理事業が進んでおり、今後給水収益の増加が見込まれます。料金回収率については、令和6年度は100%をわずかに下回っていますが、給水にかかる費用はほぼ給水収益で賄えている状況にあります。

町内には自己水源が乏しく、配水量の90%近くを浄水受水で賄っています。給水原価については、福岡地区水道企業団や北九州市に支払う受水費の影響で、類似団体平均値よりも高くなっています。企業債残高対給水収益比率は、減少傾向にありますが、令和5年度から起債借入を行っており、今後は増加する見込みです。

一方で、施設利用率と有収率は類似団体平均を上回っており、効率的な施設運営が行われているといえます。

### 2. 老朽化の状況について

令和6年度は、新宮・下府地区の老朽化した配水管更新を実施しており、年度によっては、下水道管渠整備に合わせた配水管の移設・更新も行っています。そのため、管路更新率は年度ごとに大きく変動しています。

管路経年化率は、前年度と比較して減少していますが、毎年更新できる配水管より、法定耐用年数を超過する配水管の延長が長ければ増加するため、今後は増加する見込みです。

### 全体総括

末端給水事業単独での老朽化した配水管の更新に加え、下水道管渠整備に合わせた配水管の移設・更新を行っており、耐震性・費用対効果を考慮した効率的な更新方法を検討し、実施します。また、土地区画整理事業などでの人口増加により、将来見込まれる水需要の増加に備えるため、施設整備を計画的に推進します。

昭和48年に水道事業を開始しており、法定耐用年数を超過する配水管が増加していく見込みです。今後、水道料金や加入金等収入の一時的な増加は見込めるものの、配水管更新や土地区画整理に伴う配水管の新設を行う必要があり、当面は企業債借入で財源を確保する必要があります。近年の物価高騰による営業費用の増加の影響もあり、持続的な事業運営のため、水道料金の在り方を引き続き検討していきます。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

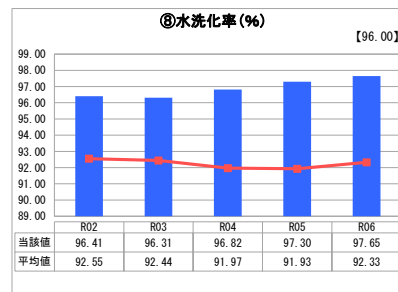
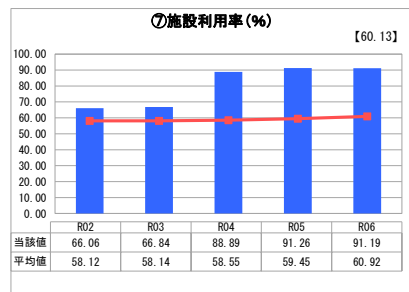
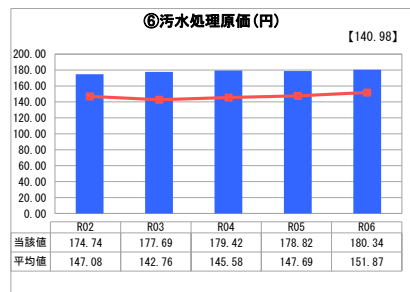
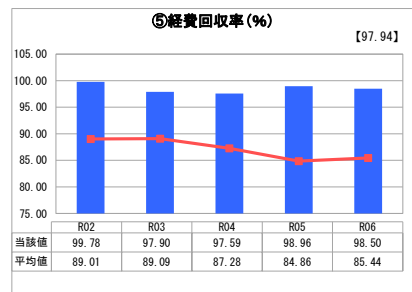
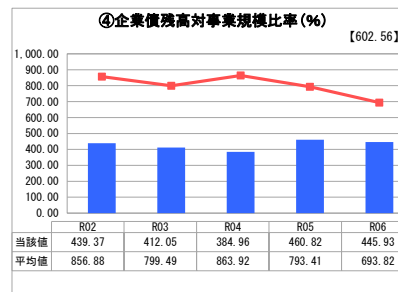
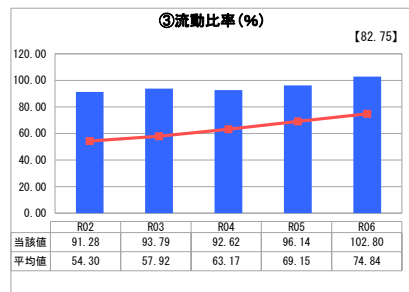
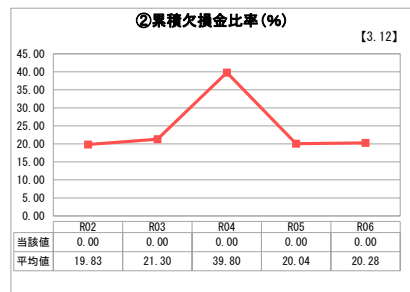
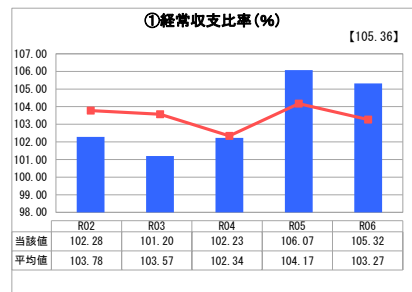
福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	60.80	86.77	94.33	3,300

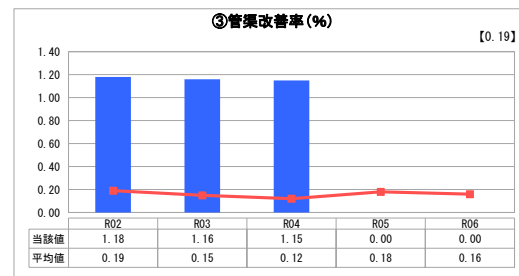
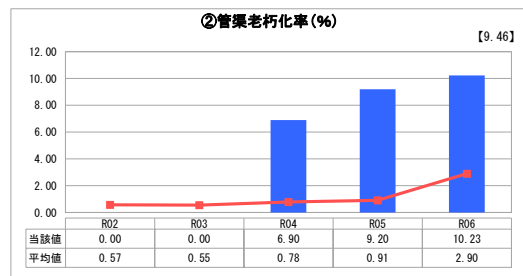
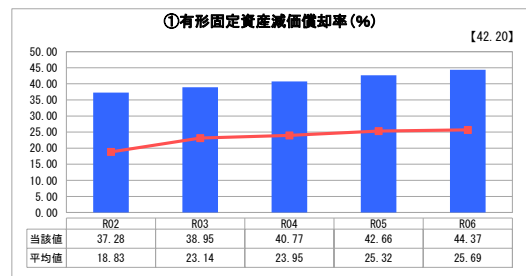
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,979	18.93	1,742.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,664	4.50	6,369.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業は新宮処理区（平成2年度供用開始）、中央処理区（平成21年度供用開始）の2処理区での事業です。

平成30年度から企業会計に移行しています。令和6年度の経常収支比率は、前年度と比較して減少しているものの、100%を超えているため、使用料収入や一般会計繰入金等で維持管理費や企業債利息を賄っている状況です。一方で、新宮中央浄化センターの増設事業による企業債の借入に伴い、企業債利息の償還が増え、今後経常収支比率も減少する予測となります。

経費回収率は、100%を下回り、汚水処理に係る必要費用を使用料収入で賄っていないため、費用削減の取組及び使用料収入増加への取組が必要です。

また、企業債残高対事業規模比率は、前年度と比較して減少していますが、新宮中央浄化センター増設事業に伴う企業債借入により、今後も増加していく見込みです。

また、施設利用率は下水道区域の拡大に伴い、増加しています。

水洗化率はほぼ横ばいで推移しており、新規下水道供用開始区域でも下水道への接続工事は順調に進んでいます。

### 2. 老朽化の状況について

施設全体の維持管理計画に基づき、適切な管理をしていくとともに、ストックマネジメント計画に基づく効率的な改築・更新を図っていきます。

なお、新宮処理区は福岡市に汚水処理を委託しているため、和白水処理センターの施設改築更新に掛かる費用を毎年度負担しています。

管渠老朽化率は、法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表しており、令和6年度も増加していますが、管渠改善は進んでいない状況にあります。特に新宮処理区の管路については、供用開始から50年を経過するものもあり、点検・調査結果をもとに、計画的な改築更新を実施していきます。

## 全体総括

施設管理では、ストックマネジメント計画に基づく点検、調査結果をもとに、優先度の高いものから計画的な改築更新等を実施していく予定です。

また、土地区画整理事業での人口増加や下水道整備区域の拡大に伴い、汚水処理水量の増加が見込まれており、新宮中央浄化センター増設事業を令和5年度から実施しています。

今後は、物価高騰による営業費用や汚水処理に係る費用の増加や企業債償還が経営を圧迫することが想定されることから、令和5年度に設置した下水道事業経営審議会において、経営戦略の見直し及び下水道使用料の在り方を引き続き検討していきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

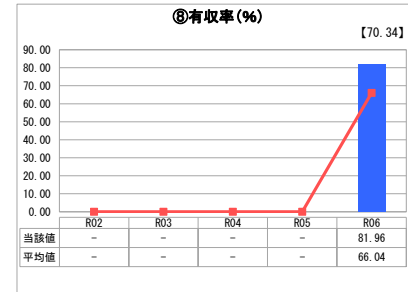
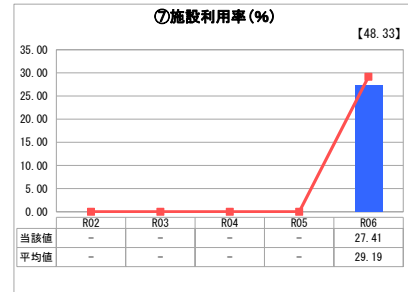
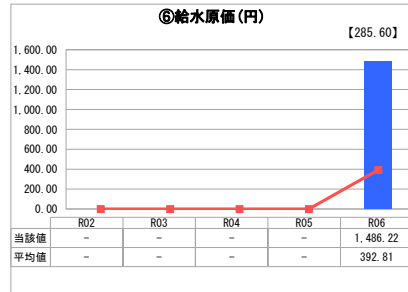
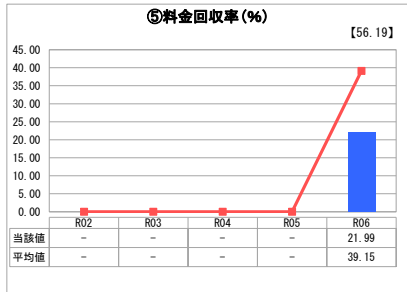
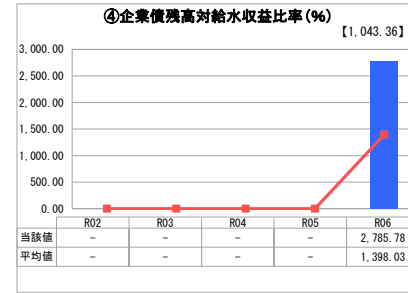
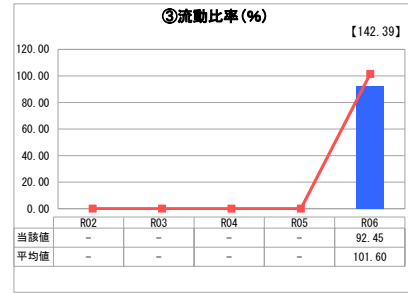
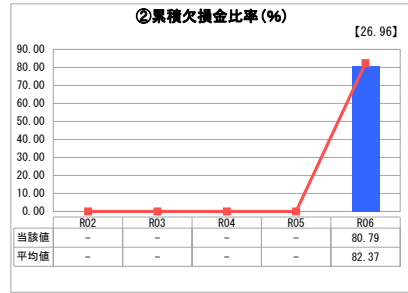
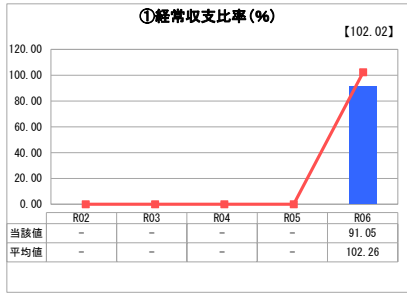
福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	71.61	0.64	5,660	

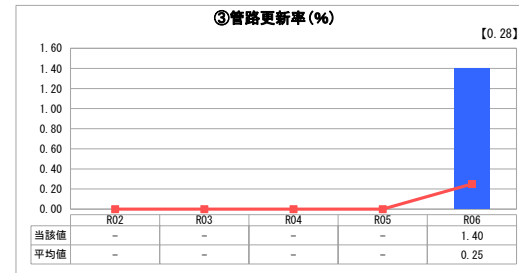
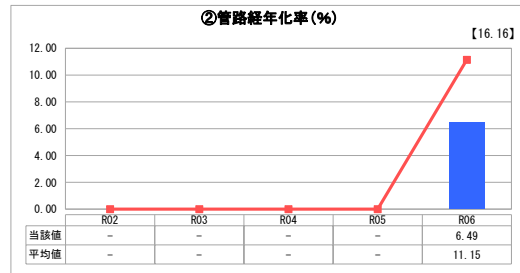
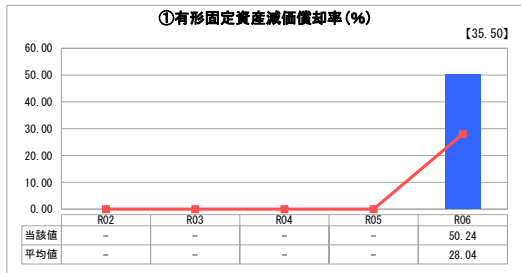
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,979	18.93	1,742.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
210	1.25	168.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業は令和6年度から企業会計に移行しています。また、離島の相島地区での事業であるため、上水道事業に比べ約1.4倍の料金体系をとっています。法適化初年度で単年度赤字となったことで、経常収支比率が100%を下回っており、累積欠損金も発生しています。離島での簡易水道事業のため給水原価も高く、料金回収率は100%を大きく下回っており料金収入のみでは給水に係る費用の2割程度しか賄えていないことを示しています。給水区域の拡大や配水量の増加は見込めないため、一般会計繰入金などにより経営改善を図っていきます。また、企業債残高対給水収益比率は、平均値と比較して高くなっていますが、今後、企業債残高は減少していく見込みです。

現状では人口減少により料金を改定しても収益の増加は見込めない状況です。したがって、今後も一般会計からの繰入に頼らざるを得ない事業運営になるものと考えていますが、料金の在り方を検討していきます。

### 2. 老朽化の状況について

平成11年度から平成13年度までの基幹改良事業により約4割の配水管更新を実施しており、未実施の配水管については随時実施してきました。令和4年度から令和5年度にかけて浄水場等の機械電気設備の更新工事を実施しました。令和6年度では、県事業工事に伴い、相島循環線配水管布設替工事を実施し、その際、耐震性に優れた管材を採用し、災害に強い管路整備を実施しました。管路経年化率は今後は増加していく見込みですが、経営状況を考慮しつつ、計画的な施設更新を実施していきます。

### 全体総括

料金回収率の改善には、給水収益の増加が必要となりますが、給水区域の拡大や配水量の増加は見込めないうえ、現状で高い設定の料金を値上げすることが難しいことから、給水収益の増加は見込めません。令和6年度から企業会計に移行し、資産等の把握により、より計画的な施設の改築更新が可能となりますが、移行前と同様、一般会計からの繰入金に頼る事業運営となります。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

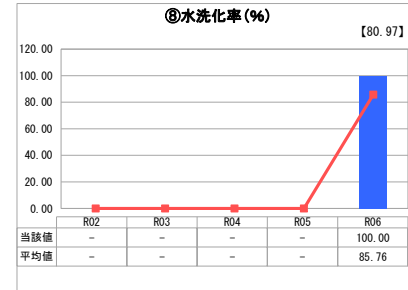
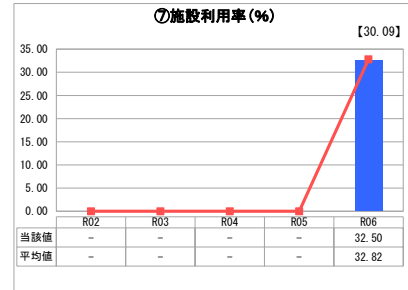
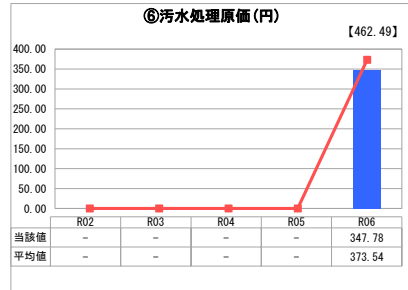
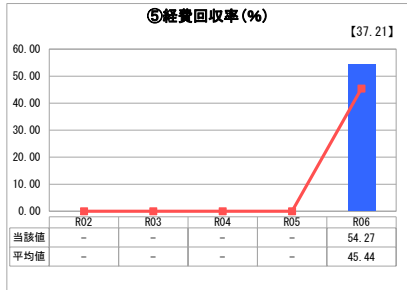
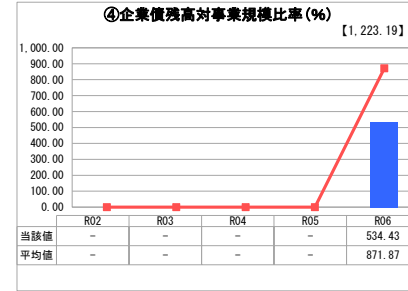
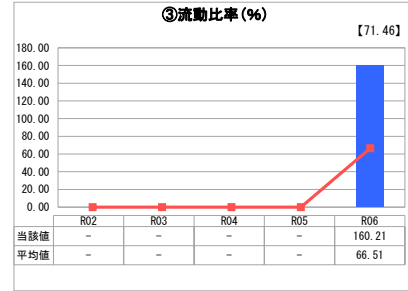
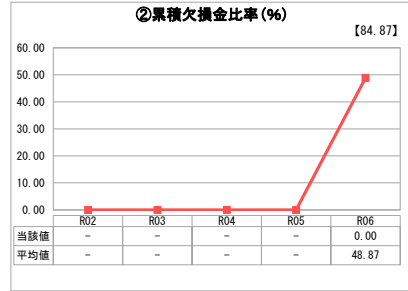
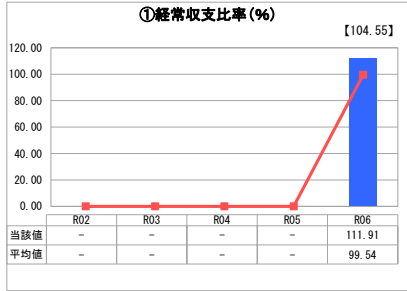
福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	83.00	0.64	82.90	3,300

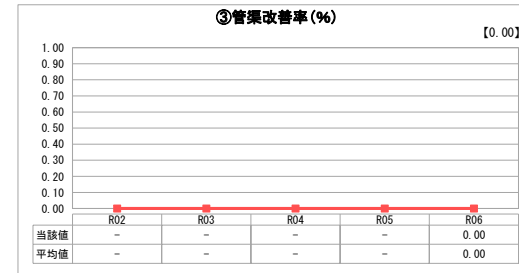
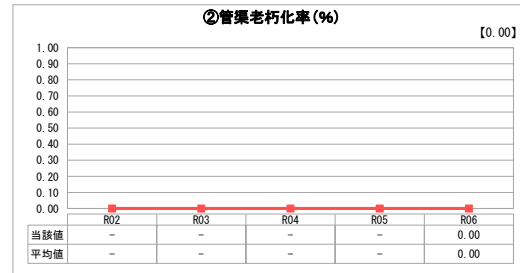
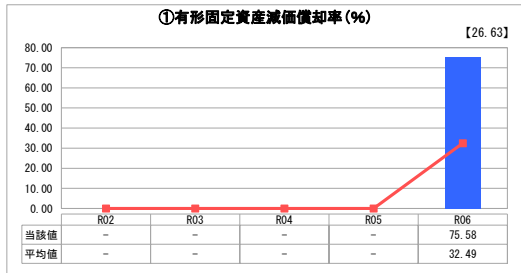
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
32,979	18.93	1,742.16
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
210	0.09	2,333.33

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業は令和6年度から企業会計に移行しております。また、離島の相島地区の漁業集落環境整備事業のため、水洗化率は100%となっています。経常収支比率は、一般会計繰入金があることにより100%を上回っていますが、経費回収率は約54%になっており、使用料収入のみでは汚水処理に係る費用の5割程度しかまかなえていないことを示しています。現状では、人口減少により使用料を改定しても収益の増加は見込めない状況です。したがって、今後も一般会計からの繰入に頼らざるを得ない事業運営になるものと考えています。

### 2. 老朽化の状況について

施設については、平成26年度と平成27年度において改築工事を実施済みです。管渠については供用開始から40年を経過しています。浄化センター等の施設については、随時設備の更新を行っており、令和6年度では、相島浄化センターの監視装置・通信装置更新工事を実施しました。有形固定資産減価償却率は、約75%となり、施設の老朽化が進んでいる状況です。今後も、経営状況を考慮しつつ、計画的な施設更新を実施していきます。

### 全体総括

経費回収率の改善には、使用料収益の増加が必要となりますが、人口減少が想定され大幅な増加は見込めません。管渠については、供用開始から40年を超えており、更新が必要となります。令和6年度からの企業会計に移行し、資産等の把握により、より計画的な施設の改築更新が可能となりますが、移行前と同様、一般会計からの繰入金に頼る事業運営となります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。